

2017 年度 Assembly 東日本予選 2nd 乙 19 テーブル 総評

2017 年度 Assembly 東日本予選 2nd 乙 19 テーブル

日時：

7 月 2 日(日) 15:30~18:40 (うち休憩 20 分)

テーブルメンバー：

岩崎(青学 3)、阿部(慶應 2)、菅原(武蔵 2)、和田(早稲田 3)、永吉(立教 2)、宮尾(青学 2)、東野(高経 2)

ジャッジ：

吹田(東大 4)、山川(立教 4)

1. 順位と選定理由

1 位 阿部 (慶應 2)

オピニオンプレゼンターとして、このテーブルで唯一アイディアの立論に至った点を高く評価しました。また 2 年生であるのにも関わらず大変落ち着いており、テーブルの雰囲気作りに長けている印象を受けました。基本的なスキルは十分についていると感じたので、それがどんなテーブルでも発揮できるような柔軟性を磨いていって下さい。

2 位 岩崎 (青学 3)

論点の本質を導き出す Q、丁寧な C を評価し、上記の順位といたしました。今回のテーブルは comparison まで反論が登場せず、彼の長所が輝きにくいテーブルであったかもしれませんが、量は少ない介入の中でもテーブルにもたらした貢献は大きかったです。今後、エデュケーションに従事する中で、そのスキルを後輩に伝えていってあげて下さい。お疲れ様でした。

3 位 菅原 (武蔵 2)

コンスタントに介入し、基本的な definition 詰め等を行っていた点を評価しました。常に先発で介入し、他者の意見に積極的に食らいつく姿勢には大変好感が持てます。しかし、先の見えない介入が多かったのが残念です。今後は、より“線での介入”を意識し、トリーターとしてスキル向上に努めていって下さい。

4 位 和田 (早稲田 3)

所々で見られた C と最後にアイディア提示を行なった点を評価しました。3 位の菅原さんとの点数は非常に僅差でしたが、発言が限定的であったことを鑑みて上位の順位といたしました。今後はエデュケーションに力を入れていくと思いますが、論点を細分化したり、順序立てたりという今回のテーブルで見られたスキルもぜひ後輩に伝えていってあげて下さい。お疲れ様でした。

5 位 宮尾 (青学 2)

C で介入し、doubt の形でテーブルへ論点を提示出来ていた点を評価しました。しかし、発言が限定的であり、またその論点の浸透率が低かったのが残念です。テー

ブルの流れを理解しまとめる力はあると思うので、他者に食らいついていく勇気をまずは身につけて下さい。たくさん介入することで身につくスキル、見えてくる世界があるはずです。期待しています。

6位 東野 (高経2)

発言が非常に限定的であったため、上記の順位としました。しかし、少なくともきちんとテーブルに参加することはとても大切です。今後はより好奇心旺盛に、他者のアイディアに介入するなり、戦略的に自身のアイディア提示に努めるなどして、自分なりの輝き方を探っていって下さい。

7位 永吉 (立教2)

介入が見られなかったため上記の順位としました。まだ来年もあるので、自分なりの目標を見つけられたら嬉しく思います。

2. 議論の流れ

Narrowing

通常通りに行われる。

Opinion Presenter Vote(10分)

4人が立候補し、投票で阿部に決まる。opinion sheet は標準的な臓器移植のもの。

ASQ(15分)

いくつか question があるが、doubt や argument は無くスムーズに進む。

Plan(10分)

Mandate area にて菅原が Japanese government のスタンスについて質問し、阿部が patient に accident が起こってから Organ Transplant が行われるまでのフローを示す。これに、和田が status quo と after plan adoption で patient の分類が違う(SQ では alive, braindead, dead の3つがあるのに対し、APA では alive か dead しかない)ことを補足する。

その他特に question や argument は無く、advantage を確認する。

Disadvantage Presenter Vote(45分)

5人が立候補する。各候補者への question や一部の target の definition の変更の末、投票で岩崎に決まる。solution について特に反対意見は無く、disadvantage が確認される。

Comparison(90分)

1st Logic(10分)

阿部によって提示される。

Claim:

AD>DA(Target)

Data:

AD: high possi to recover ①
 DA: low possi ②
Warrant:
 ①>②
Reason for Warrant:
 contribution

菅原の Question により、contribution の具体的な中身が仕事によるものであること、岩崎の Question により、仕事が make situation better に繋がる理由が経済を活性化させることであるとわかる。

Objection は特に無く、立論される。

2nd Logic (DA>AD) (40 分)

菅原によって提示される。

Claim:
 DA>AD(Quality)
Data:
 AD: die by J/G = enemy ①
 DA: die by disease = encourage ②
Warrant:
 ①>②
Reason for Warrant:
 ①: enemy ↑ s/m
 ②:encourage ↓ s/m

最初に和田が S.Q と A.P.A で両 TG に①enemy が存在するか、②encouragement があるかを confirm する。S.Q において ADTG に enemy が存在していないという情報に対し、宮尾が「S.Q において J/G が ADTG に touch していない事から、ADTG も killed by J/G である」という doubt を表明するが、菅原の説明と岩崎の question により、ADTG に関しては”already touched as a system”であることが分かる。これにより宮尾の doubt は解消される。

その後岩崎の Question で①enemy がいることが s/m に繋がる理由が not encouraged であること、②enemy がいると not encouraged である理由が have no connection であることが分かる。その後阿部が have no connection であるかは確認できないことを confirm したことで、菅原が自ら logic を取り下げる。

3rd Logic (DA>AD)(40 分)

和田によって提示される。

Claim:
 DA>AD(Quality)
Data:
 AD: J/G try to save ①
 DA: J/G not try to save ②
Warrant:
 ①>②

また、自ら検証順序を示す。

Procedure:

1. ①
2. ②
3. (TG) see JG try → TG believe possi or not
4. TG believe possi → s/m decrease or not

阿部が try の意味について聞き、和田は「in SQ, J/G set up Mandate to save TG / APA, J/G set up Mandate to force TG」と答える。続いて①の理由に関して聞き、「in SQ, J/G not reject patients (= if they say “want O/T”, J/G admit it)」と答える。菅原の question で save(cure)の意味が”get better condition”であることが分かると、岩崎が SQ と APA で uniqueness が無いことを主張しようとするが、菅原の confirmation で、Data(1st, 2nd step)を明らかにし Warrant(3rd step 以降)に進むことになる。

3rd step に移り、阿部が linkage について question をするが、検証手順が明らかにならず、岩崎がどのような種類の”try”が必要であるかを聞いている途中で終了する。

3. 最後に

自分の思う結果を残せた人も、そうでなかった人もいます。しかし、一生に一度しかない学生生活をディスカッションにかけたことに自信を持って下さい。かけた時間に関わらず、学べることの多い世界です。3年生もまだまだディスカッション人生は終われません。可愛い1.2年生を支えていってあげて下さい。2年生はまだまだこれからです。思わぬ力を発揮してくる猛者は必ず誕生します。仲間と切磋琢磨して、輝いていって下さい。皆さん本当にお疲れ様でした。